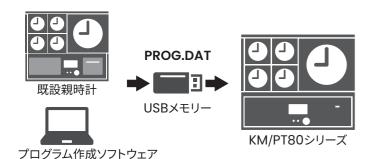
# USBメモリー取扱説明書

# USBメモリーで出来ること

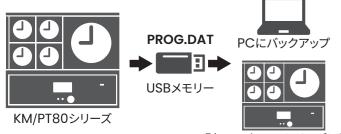
#### 1.既設親時計プログラムの転送

運用中のプログラムデータを新しい本体に読込ませます。



# 2.プログラムのバックアップ

運用中のプログラムデータをUSBメモリーに吸出します。



別のKM/PT80シリーズに移植

# プログラムデータとは

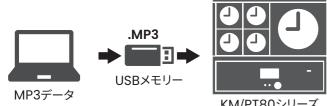
- ・KM/PTシリーズ本体に格納され、記憶媒体に移したもの
- ・KM/PTシリーズプログラム作成ソフトウェアから書き出されたもの ファイル名は

**KM60PROG.DAT** (KM-60、70シリーズのプログラム) KM80PROG.DAT (KM-80シリーズのプログラム)

となっており、KM-80シリーズではどちらも扱えます。 これをUSBメモリーに移し、KM-80本体に転送することができます。 ※KM-70、60シリーズではKM-80のプログラムデータは使えません。

# 3.オリジナル曲の入力

MP3形式のオリジナルの音声を転送します。



KM/PT80シリーズ

・USBメモリーは付属しません。

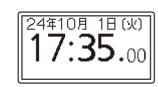
・フォーマットはFAT32ファイルシステムでお使いください。

# 1.USBメモリーによるデータ読込み

USBメモリーにあるプログラムデータを本体に読込む方法を 説明します。



時計表示画面の状態でUSBメモリーを差し込みます。





電波受信状態では操作できません。作業を進める場合は取り 消しボタンを長押しして電波受信を強制解除してください。

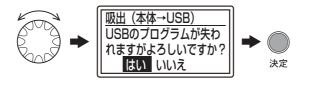
USBメモリーを認識するとメニューが現れます。

「読込(USB→本体)」を選び、決定ボタンを押します

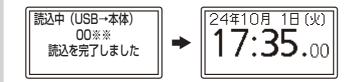


USBメモリーに保存されているプログラムデータを本体に読込ます KM-60、70、80シリーズのプログラムの移植などに使います。

決定ボタンで読込を選択すると確認画面が現れます。 USBメモリー内のデータが本体に上書きされるので問題がなければ 「はい」を選択し決定ボタンを押します。



決定ボタンで読込を選択するとUSBメモリーから本体に データ読込が行われ、時計画面に戻ります。

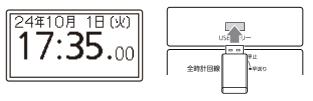


#### 2.USBメモリーによるデータ吸出し

本体のプログラムデータをUSBメモリーにコピーする方法を 説明します。



時計表示画面の状態でUSBメモリーを差し込みます。



Check!

電波受信状態では操作できません。作業を進める場合は取り 消しボタンを長押しして電波受信を強制解除してください。

USBメモリーを認識するとメニューが現れます。

「吸出(本体→USB)」を選び、決定ボタンを押します



本体に格納されているプログラムデータをUSBメモリーに吸出します。 プログラムのバックアップや移植などに使います。

決定ボタンで読込を選択すると確認画面が現れます。 本体のプログラムデータがUSBメモリーに上書きされるので 問題がなければ「はい」を選択し決定ボタンを押します。



USBメモリー内のKM/PTシリーズのプログラムデータ以外の ファイルは上書き/消去されることはありません。

決定ボタンで読込を選択すると本体からUSBメモリーに データ書出しが行われ、時計画面に戻ります。



# 3.オリジナル曲の登録

オリジナル曲をUSBメモリーから登録する方法を説明します。

オリジナル曲の保存領域である08から16までの曲の番号を 付けたMP3データをUSBメモリーに保存します。



9曲目に登録する場合はファイル名を09.mp3とします。



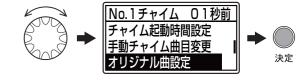
Windowsでファイル名拡張子が表示されない設定では 「09.mp3」が「09」のみの表示になっています。これに 「.mp3」を付け加えると実際には「09.mp3.mp3」と なってしまい、KM本体は音声ファイルとして認識できません。

「チャイム」が設定されている回路の設定ボタンを押します



設定

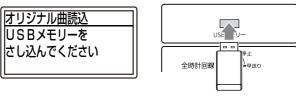
「オリジナル曲設定」を選び、決定ボタンを押します



「MP3 読込」を選び、決定ボタンを押します



下記の画面が表示されたら、USBメモリーをUSBコネクタ ーに差し込みます。





USBメモリーに入っている曲番号以外の曲が本体から 消えることはありません。

「はい」を選び、決定ボタンを押します



読み込みを開始します。

曲番号8~16について、それぞれ読込んだ結果が順番に表示 されます。USBメモリーを引き抜いて完了です。